（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2771601941		
法人名	株式会社　イワノ		
事業所名	グループホーム　きさく苑吹田		
所在地	大阪府吹田市内本町1丁目17-17		
自己評価作成日	平成25年12月14日	評価結果市町村受理日	平成26年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　MIRO谷町　4F
訪問調査日	平成26年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者様にゆったりと過ごして頂けるようホーム内の雰囲気にも気をつけ居心地のよい空間作りに努めている。
・日常生活の中で利用者様と一緒に出来る事は、ご本人の意思を尊しながら協同して行っている。
・毎食、食事は手作りの温かい品を提供しており農家から直接買い付け、こまめに精米した白米には定評がある。また、利用者様の食べたいメニューのリクエストに応える事が可能である。
・月に1回手作りおやつの日を設け利用者さまと一緒に作業をしたり、お誕生日には手作りケーキでお祝いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体の法人は病院の看護士寮であった施設を改造した事業所を引継ぐ事になり、以来１０年が経過した。就任後１年余りの管理者と元管理者で現在は計画作成者である２人が職員と一緒になり、利用者が日々穏やかに暮らせるようにと開設当初から変わらず継続されている事業所である。運営者からは精米した美味しいお米を提供され、身近に支えられていると感じている。ホームは4階建ての2・3階部分にあり、利用者は日中3階で過ごし、機能の維持を目的に口腔体操や体を動かす運動を大切に行っている。1階の多目的ホールは、クリスマス会やそうめん流しのイベント時及びボランティアの催し等や会議で有効に使用されている。栄養バランスの摂れた日々の手作り料理やおやつ作り、及び弁当持参のお出かけは、美味しいお米と共に事業所の大きな特徴である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を作り事業所全体で理念に向けた事業運営に取り組んでいる。毎朝、理念を唱和し職員の意識を高めている。	事業所独自の理念を作成し、毎朝唱和することで職員の共有を図り、個別ケアを大切に利用者ごとに担当者を決め利用者の思いに寄り添うように実践している。	
2	(2)	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に所属している。地域の行事(敬老会)に参加させて頂き交流を深めるように取り組んでいる。	自治会に加入している。開設時は地域の合意が得られなかったが今の自治会会長は事業所の前が住居で、日々事業所の活動を見ており、理解が深まっている。敬老会や祭り等の地域行事に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の要望や介護の相談等は随時受け入れ対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月ごとに開催しておりサービスの現状や入居者様の状態、行事報告等を行っている。平成24年10月から市のCSWが会議に参加している。	家族・自治会・民生委員・地域包括センター・社会福祉協議会に呼びかけ、民生委員や自治会の欠席もあるが年6回開催している。会議時間を約1時間かけ、双方向に議論を展開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員を含めたグループホーム特定施設の部会が定期的にあり情報交換に努めている。	市主催のグループホーム連絡会に出席し、市担当者と交流や相談を行っている。運営推進会議に於ける地域包括センターの意見は事業所にとって大きな役割を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車イスでの安全な座位が保てない為、ご家族様同意のもと車イス使用時に安全ベルトを使用している入居者様がいる。定期的に検討会を開き拘束による弊害、ベルトの必要性の有無を話合っている。	原則身体拘束は行わないことを明示し、マニュアルを整備し研修も行っている。家族の要望で車椅子時に安全上ベルトを使用している方がいるが市の実地指導で相談し、改善に向けている。玄関は家族の要望で施錠しているが天気のよい日は外出を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に繋がる事が無いよう職場環境を良くするように努め、高齢者虐待防止法に関する情報を収集し職員に指導を行い見過ごす事が無いよう注意を払っている。又、内部研修も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が入居された機会に、制度等について内部研修を行い理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には疑問点など無いよう理解されるまで充分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書に明記。又、玄関入口にもポスターにて掲示している。家族とはコミュニケーションを取るようにし意見等あれば反映できるよう努めている。介護相談員の受け入れも行っている。	事業所は家族との面会時に有意義な会話ができる機会をと考えている。家族4人の参加を得て、大掃除も開催し、きっかけ作りとなった。管理者は毎月利用者ごとの身体や生活の様子及びリクレーションや日常生活に関する報告を家族に送り、家族からは意見を貰うように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を開催し意見を聞く機会を設け運営に反映させている。また、日常でも職員とのコミュニケーションも大事にしており、意見や不満、相談など聞くよう努めている。	管理者は半期ごとに職員に目標設定シートへの記入を元に個別面談を行い、意見を聞く機会を得ている。月１回の職員会議で職員は意見を言える環境にあり、出された意見は前向きにサービスの改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心や、やりがいを持って働けるよう指導し実績や勤務状況を充分に把握し給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障が無い限り外部研修に参加し、そこで得た知識を職員会議で伝授している。又、報告書の提出も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡会に加入している。他の事業所と情報交換に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は事前に面談を行い、本人と家族からサービス時の不安や疑問点、要望など話す機会を充分に設け信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の様子をこまめに報告、その上で家族の不安や求めていること等の要望を聞き、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向に沿った対応が出来るよう、会話から情報を収集し必要としているケアを見極めサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を大切に、職員と利用者が一緒に過ごす時間を多く持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの家族関係が途切れないように、家族も参加できる行事や、面会などの時間を共有し共に支え合える関係作りに努めている。面会の少ない家族には出向いていただけるよう声を掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣や馴染みの場所で行われた行事に参加、旧知の知人に再会される場面がある。これまでの関係が途切れないよう支援している。	神社のどんど祭りでは、旧知の知人に再会が出来た。知人や友人との年賀状の交換を継続している。実家近くの店や近隣の喫茶店を利用し、馴染みの場所支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格をよく知り、トラブルや孤立する事のないよう、さりげなく間に入り円滑な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者にも時折訪問する等、継続した関わりを持ち相談・支援の関係が途切れないよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を傾聴し、家族とも相談しながら意向に添えるよう職員での話し合いの場を持ち情報を共有している。	過去の生活暦を職員は共有し、利用者に寄り添いながら日々の利用者の思いを把握し、希望に添うように努めている。家族からも繰り返し利用者の意向を得るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族からフェイスシートを基に生活歴などの情報収集を行い、職員全員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録にて日々の生活状況を個々に把握し職員全員が目を通し情報を共有している。申し送りや業務日誌なども用いている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族からの要望をその都度聞き3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。月１回の会議の場で随時利用者様の問題点や改善点を検討しケアプランに反映させている。	一覧表でケアプランに基づいた利用者ごとのチェック表を整備し、日々記入してモニタリングを行い、毎月の職員会議でカンファレンスを実施し、家族や医師と相談しながら介護計画を作成している。見直しは3ヶ月に1回行い、急変時は即対応している、	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン表、介護経過記録を用いてケアの向上を図ると共に、個人記録に日々の様子や対応を記入し情報を共有しながら適切な援助を心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の状況や希望に応じて、外出の支援や病院受診の支援など柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道や介護支援サポーター等の受け入れを行い個々の能力に応じた活動を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医の往診を受けている。利用者様の状態に応じて個々の往診も可能になっており精神科など他の医療機関も継続して受けれるよう支援している。	協力医療機関の医師が月1回往診している。家族の要望で利用者のかかりつけ医となっている。専門医等は従来の医師に家族の協力で通院し、必要に応じて事業所も支援している。歯科は現在3人が事業所で治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師や訪問看護を受け入れていない為、医師との連携を密にとるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と必要な情報交換を行い、本人の状態の把握に努めている。医療相談担当者や医師と連携をとり早期退院に向けて家族とも話し合いの場を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないが重度化しても出来る限りホームでの生活が継続出来るよう家族や職員と話し合いチームケアに取り組んでいる。又、契約時に重度化した場合の対応について説明を行っている。	終末期に関する現在の事業所の方針は24時間の医療連携を契約していないので看取りは行わないとし、家族に説明している。事業所は利用者が重度化になっても口から栄養摂取が出来る状況なら家族の要望に出来るだけ沿うように支援を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアルを作成している。また、迅速に行動が出来るよう消防署が主催する救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・日中をそうていした避難訓練を年2回行い職員は昇降機や担架等取扱い出来るよう体験している。災害時には近隣の協力を得られる体制となっている。	年2回消防署の指導に基づき消火避難訓練を実施している。津波の時は地域で高い建物が少なく屋上を地域の避難場所として検討している。	事業所は構造上4階建ての2・3階部分に1ユニットを運営しており、夜間1人体制時に於ける避難誘導訓練はグループホーム協会の調査研究報告書等を参考にし、より実践的な訓練と頻度を増やす事を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや日常のケアについてミーティング等で職員に指導し利用者様が不快な思いをされないよう配慮している。	先輩である利用者の人格に配慮し、プライバシーを損ねる言葉遣いや態度に気づいた時は職員同士が注意しあうように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気を心がけ日常的に自己決定が出来るような場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかなスケジュールは設けているが、利用者のペースに合わせた対応を心がけ希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院に訪問して頂いている。出来る限り本人に服を選んで頂き、常に清潔を保てるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、調理や食器拭きなどの片付けを職員と共に行っている。又、おやつ作りを通して作る楽しみを感じて頂いている。	買い物から献立・調理を職員が行い、栄養バランスが摂れた手作り料理が提供されている。利用者は出来る範囲で手伝い、食事風景は職員と一緒に笑顔で満ち溢れている。利用者が希望する料理も即対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を毎食記録し利用者の状態に応じてキザミ食・ペースト食、水分にとろみをつけるなど対応している。不足している場合は捕食し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔にしている。利用者様の状態に合わせた口腔ケア用品を使用しており必要に応じて歯科受診・歯科往診を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目指し排泄時間を記録、パターンを把握し誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、日中は自立で排泄が出来るように支援している。利用者からのリハビリパンツ使用の相談にも利用者の思いを大切に寄り添いながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要時には緩下剤を使用する事もあるが、なるべく散歩や体操など身体を動かすようにし、繊維質な物や乳製品を摂取、水分量にも気をつけ便秘予防に向けて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を行っている。利用者様の個々の活動や、その日の状態等に合わせ支援している。	利用者の希望に対応しているが基本は週3回入浴が出来るように支援している。職員2人がかりで入浴する利用者も増えてきているが心のこもったサービスを行っている。ゆず湯等の楽しい入浴支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごし、夜眠れるよう生活のリズムを整えている。安眠できるよう明かりや室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能等を明記した服薬リストを作成しており職員が把握出来るようにしている。症状に変化があれば介護記録に細かく記入するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	持てる力を活かし日常的にレクや家事作業を行っている。又、外部よりボランティアを招き書道・読み聞かせの時間を設けている。個々に嗜好品を楽しみ気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回外出行事を計画したり、地域の行事にも参加している。日常的にも買い物や散歩に出かける機会を設けるようにしている。又、利用者の希望を聞き入れ食事に出かける事もある。	天気のよい日は近くのお寺に散歩する等、少しでも外の空気に触れるようにしている。年2回、弁当持参のお出かけを継続したり、花見・紅葉狩り、外食、地域の行事等盛りだくさんにイベント的な外出を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を管理されている方もおられる。買い物の際は職員が付き添い支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホーム内の電話を利用して頂き家族といつでも連絡が取れるようにしている。又、年賀状のやり取りなど家族との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の際は大きな音を立てず、テレビを消し音楽を流すなどして居心地のよい空間作りを心がけている。ホーム内は季節に応じた飾り付けをするように工夫している。	利用者は日中3階の居間で過ごしているが壁に季節感を感じる正月の凧の貼り絵やイベント時の写真等が飾られている。利用者の力作の習字も展示されている。2・3階にソファーも置き、居心地よく過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあり靴を脱いでくつろげる空間を設けている。2階3階にソファーを置き好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごせるよう家族とも相談し、自由に持ち込んでいただいている。布団を敷き寝ておられる方もおられ今までの生活が継続できるよう支援している。	使い慣れた思い思いの家具を持ち込み、家族の写真や手芸品を飾り、入所以前と変わらない居室となっている。居室は日当たりがよく、換気を丁寧に行い、利用者ごとに合った、気持ちよく暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物品の位置に配慮し事故防止に努めている。トイレや浴室等分りやすく表示し、不安や混乱を最小限に止めるよう工夫している。		